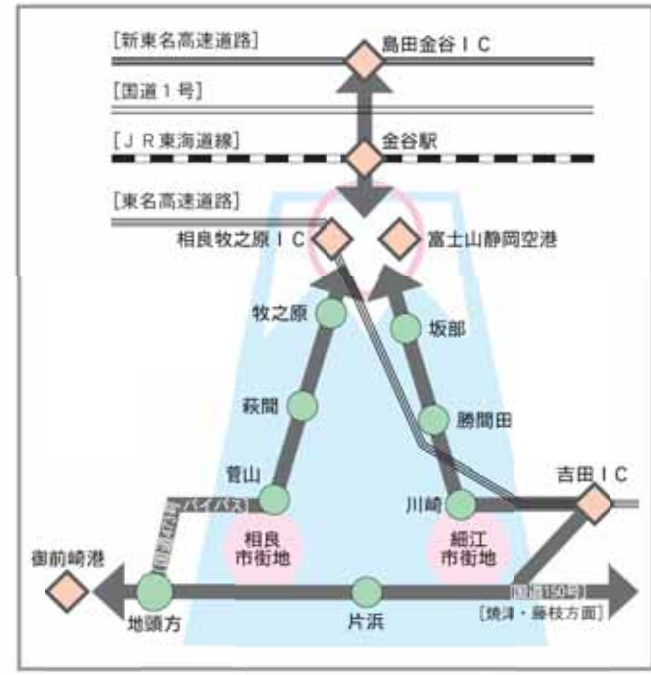


牧之原市地域公共交通網形成計画を策定

「住み続けたい」「働き続けたい」「訪れたい」を支える地域公共交通の構築

鉄道駅のない本市では、日常の移動手段は自家用車に頼っています。しかし、車を運転できない高齢者や障がい者、児童や学生などのいわゆる「交通弱者」にとって、バスやタクシーなどの公共交通は重要な移動手段です。バス路線をはじめとする公共交通の利用者数は、人口減や自家用車の普及に伴い、本市を含む全国で年々減少傾向にあります。加えて、近年問題となっているバスの運転士不足も重なり、全国的にもバス路線の減便、廃止が進んでいます。市では、公共交通の効率的な維持・確保のため、将来の方針を定める「地域公共交通網形成計画」を策定しました。

問い合わせ 地域振興課 増田 ☎(23) 0041



【図1】富士山型ネットワーク構造

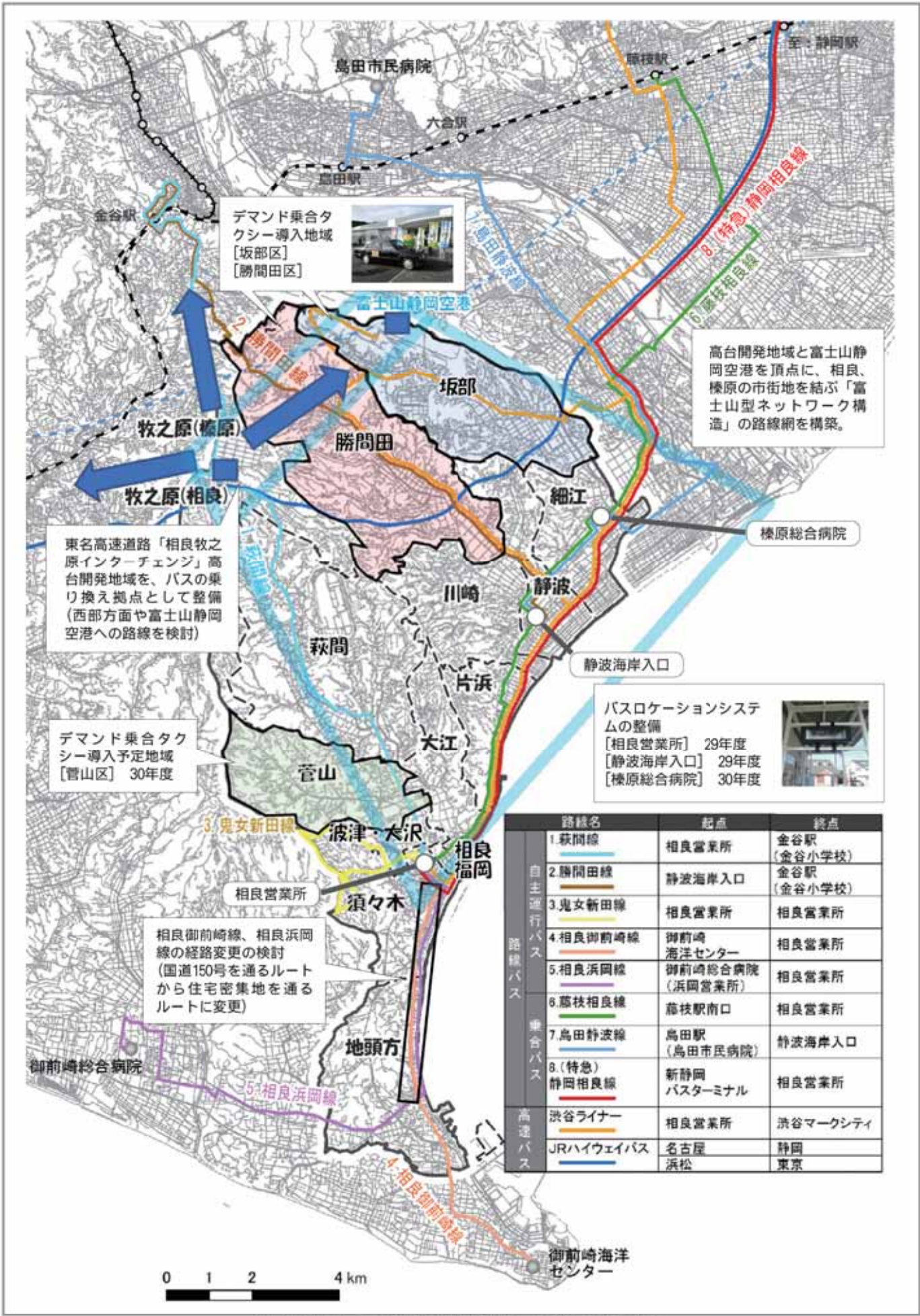
地域の公共交通ネットワークの構築に向けて

6月に策定した「牧之原市地域公共交通網形成計画」は、公共交通の施策を3つの基本方針に分類しています。市のまちづくりの基本方針を示した「牧之原市都市計画マスタープラン」では、将来都市構造として「富士山型ネットワーク構造の構築」を掲げています。(図1)そこで、1つ目の基本方針を「富士山型ネットワーク構造の形成に資する地域公共交通ネットワークの構築」と定

め、持続可能な都市づくりに向けた地域公共交通ネットワークの構築を図ります。また、公共交通には、観光福祉、教育などのあらゆるまちづくりと連携したサービス提供が求められます。そこで、2つ目の基本方針を「効果的な地域公共交通サービスの提供」と定め、誰もが安心して利用できる公共交通サービスの提供を図っていきます。最後に、持続可能な公共交通の実現に向けては、交通事業者が抱える諸課題に対応しつつ、利用者増加を目指す効果的・戦略的な利用促進の取り組みが求められます。そこで3つ目の基本方針を「持続可能な運行を支える利用促進・体制強化」と定め、市民交通事業者、行政が互いを理解し、連携しながら利用促進や組織の体制強化を図っていきます。

「牧之原市地域公共交通網形成計画」における基本方針と主な取り組み

基本方針	主な取り組み
1 富士山型ネットワーク構造の形成に資する地域公共交通ネットワークの構築	<ul style="list-style-type: none"> 相良御前崎線、相良浜岡線の住宅集積地への経路変更 相良牧之原インターチェンジ周辺の高台と西部方面を結ぶ路線の創出 デマンド乗合タクシーの本格運行と他地域（市内）への展開
2 効果的な地域公共交通サービスの提供	<ul style="list-style-type: none"> バスロケーションシステム（バスの遅延状況の確認）やパークアンドライド駐車場の整備 各地区の拠点となるバス停の待合環境整備 低床バスやユニバーサルデザイン（UD）タクシーの普及促進
3 持続可能な運行を支える利用促進・体制強化	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通マップや利用促進リーフレットの作成 市民、市職員、企業に対する公共交通利用の促進 地域公共交通を支える地元組織や人材の発掘など、市や事業者が共に育つ関係の構築



牧之原市内の公共交通路線図と今後の再編方針